

研究経過報告（平成6年9月～平成8年8月）

田 畑 治

1. カウンセリング過程と精神健康の研究

〔著書・編著〕

『臨床心理学—その発展と課題の広がり』財団法人放送大学教育振興会. 第1～3, 6, 9, 12～13, および15章を分担. 1995.

健康促進, 成長促進としてのコミュニティ (星野和実と共同) 山本和郎・原裕視・箕口雅博・久田満編『臨床・コミュニティ心理学—臨床心理学的地域援助の基礎知識』ミネルヴァ書房 10-11頁, 1995.

来談者中心療法 田中富士夫編著『臨床心理学概説』(新版)北樹出版 126-138頁, 1996.

カウンセリング・マインドを育てる 梶田正巳編『成長への人間のかかわり—心理学・教育的アプローチ』有斐閣, 231-249頁, 1995.

〔論文〕

心理療法における日常化と非日常性 (伊藤義美と共同)『心理臨床—名古屋大学教育学部心理教育相談室紀要』第10巻, 25-36頁, 1995.

The History and Trends of Counseling in Japan (英文).『教育心理学年報』第34集, 196-202頁, 1995.

家族の世代間関係と精神的健康に関する研究—孫世代と祖父母世代の相方向的なかかわりについて (遠藤英俊・佐藤朗子・星野和実他6名) 安田生命社会事業団研究助成・抄録集, A-14頁, 1995. 同報告書, 77-84頁, 1995.

PTSD—喪失と歴史.『人間性心理学研究』特集「災害と人間」, 第13巻第2号, 186-195頁, 1995.

サイコセラピストにおける日常性と非日常性 (伊藤義美と共同)『心理臨床—名古屋大学教育学部心理教育相談室紀要』第11巻, 5-16頁, 1996.

日本における心的外傷後ストレス障害に関する心理臨床学的研究『病院・地域精神医学』第38巻1号, 通巻119号, 93-94頁, 1996.

私のカウンセリング—変化していないことと変化してきていること. 日本カウンセリング学会第29回大会発表論文集 (名古屋大学), 4-5頁, 1996.

2. 心理臨床家の養成, 教育・訓練の問題

〔著書〕

臨床心理学の習得 (Part 4. 臨床心理学の展開) 河

合隼雄・山中康裕編『臨床心理学入門』(こころの科学増刊)日本評論社, 150-156頁, 1994.

臨床心理的研究 (Part 1. 臨床心理士・6つの基本課題), 全国主要大学めぐり・名古屋大学 (Part 2), 大塚義孝編『改訂版/臨床心理士入門』(こころの科学1995年9月号)日本評論社 24-27頁および62-63頁, 1995.

〔論文 (報告書)〕

カウンセリング訓練法としての犬猫法 (研究3). 平成7年度教育研究学内特別経費プロジェクト研究報告『教育学部心理教育相談室における心理臨床家の育成に関する研究』名古屋大学教育学部, 91-122頁, 1996.

3. 学生期, 青年期心理, 学生相談・グループアプローチの問題

〔論文〕

悲嘆にくれること・居合わせること—心の傷の共有体験を意味〈巻頭言〉『名古屋大学学生相談室紀要』第6号, 1-2頁, 1994.

ファシリテーターの感想文「グループと楽しむということ」自己発見のための合宿セミナー (人間関係体験セミナー)の報告.『名古屋大学学生相談室紀要』第6号, 50-51頁, 1994.

喪失の悲しみを越えて生きること—“心の空白”を埋める二人称の生き方〈巻頭言〉『名古屋大学学生相談室紀要』第7号, 1-2頁, 1995.

海に囲まれたグループ (3. ファシリテーターの感想文)『名古屋大学学生相談室紀要』第7号, 50-51頁, 1995.

名古屋大学における学生相談ネットワーク形成のための基礎的研究 (2) —1・2年生クラス担任教官への質問紙調査 (南淳三・森田美弥子・鶴田和美と共同)『名古屋大学学生相談室紀要』第7号, 28-38頁, 1995.

4. 教育臨床, 教育の人間関係の問題

〔著者〕

教育相談 國分康孝編『学校カウンセリング』(こころの科学)58号, 日本評論社, 26-28頁, 1994.

教師への心理臨床的援助 岡堂哲雄・平尾美生子編『現代のエスプリ』別冊〈スクール・カウンセリングシ

リーズI) 特集『スクール・カウンセリング——要請と理念』至文堂, 154-166頁, 1995.

今いじめられている君へ——日記やノートのすすめ
松原達哉編『今いじめられている君へ——カウンセラー50人からのアドバイス』教育開発研究所, 44-45頁, 1995.

十四の心で人と接する 松原達哉編『いじめっ子への処方箋——カウンセラー50人によるいじめ解決法』教育開発研究所, 86-87頁, 1996.

〔論文〕

教師の生徒への密かな期待〈巻頭言〉『名古屋大学教育学部附属中・高等学校研究紀要』第39集, 1994年度, 1-2頁, 1994.

研究開発指定学校の元年に当たって〈巻頭言〉『名古屋大学教育学部附属中・高等学校研究紀要』第40集,

1995年度, 1-3頁, 1995.

5. その他

対人関係の心理学(B.心理学Ⅲ) 若杉長英編『移植コーディネーターテキストブック』第1章, 62-63頁(タイプ印刷).

百聞は一見にしかず 『窓』(名古屋大学附属中・高等学校図書部報)第41号, 1-2頁, 1994.

辞典項目: 依存性うつ, 外傷, カウンセリング, 面接法 岡本夏木・清水御代明・村井潤一監修『発達心理学辞典』ミネルヴァ書房, 37, 78, 88および649頁, 1995.

村上英治先生のご逝去を悼む 『心理臨床—名古屋大学教育学部心理教育相談室紀要』第11巻, 3-4頁, 1996.

以上

(平成8年10月9日記)

研究経過報告 ('95年11月~ '96年10月)

吉田俊和

1. 「社会的促進」に関する研究

筆者が大学院を修了するところからテーマとした研究の成果を, 昨年11月に「社会的促進過程に関する研究—他者の存在と個人のパフォーマンス—」の題目で学位論文として提出した。いろいろ不十分な点もあったが, とにかく一つの区切りをつけるためにまとめ上げたというのが偽らざる心境である。

2. 「学校組織」に関する研究

一昨年より, シキシマ学術・文化振興財団の研究助成を受け, 松原敏浩(愛知学院大学)らと始めた共同研究であるが, 第2番目の研究成果が公刊された。学校組織における管理職・主任層のリーダーシップ—学校組織の社会心理学的研究— 1996 経営行動科学, 10, 147-162.

なお, 現在は第3番目の研究成果を「学校組織の社会心理学的研究(Ⅲ)」として, 投稿準備中である。この一部は, 本年度の日本グループ・ダイナミックス学会第44回大会で口頭発表された。

3. 「大学生の対人適応」に関する縦断的研究

来年4月に, 教育学部に入学した学生の友人関係の形成と変容過程をさまざまな個人変数との関係から検討する。また, 孤独感や対人的なストレス経験とサポートネッ

トワーク, 精神的健康度との関係などを追跡的に調査する。現在, 具体的な調査の実施計画について, 共同研究者の廣岡秀一(三重大学)らと立案中である。

4. その他

研究論文

意見表明における自己呈示に関する研究 1996 名古屋大学教育学部紀要——教育心理学科——, 43 (印刷中)(栗林克匡と共同)

分担執筆

他者の存在と個人のパフォーマンス 1996 長田雅喜編「対人関係の社会心理学」福村出版 Pp.17-26.

口頭発表

能力評価場面における自己呈示の性差に関する研究 1996 日本社会心理学会第37回大会発表論文集 Pp.222-223. (栗林克匡と共同)

意見表明における自己呈示に関する研究—自他の知識量の比較の効果— 1996 日本グループ・ダイナミックス学会第44回大会発表論文集 Pp.188-189. (栗林克匡と共同)

現代の大学生の友人関係の特徴に関する一考察 1996

日本グループ・ダイナミックス学会第44回大会発表論文集 Pp.208-209. (山中一英と共同)

この教室に赴任してから, 一年が経過した。思い返せ